

- 厳しい安全保障環境を踏まえれば、**日米同盟の技術的優位性を確保するためには、日米間の装備・技術協力を迅速かつ大胆に進めていくことが不可欠**。そのためには、**防衛当局間において、防衛産業サプライチェーンや技術面での協力を含めて、防衛生産・技術基盤の維持・強化のための施策につき緊密に連携**していくとともに、各事業を効率的かつ迅速に進めていくための**新たな協力枠組みが必要**。
- 今回の日米「2+2」において、①**共同研究・開発の迅速化**及び②**サプライチェーン協力の強化に係る枠組みに署名**し、③**FMS調達の合理化を実現する枠組みの相当な進捗を確認**。

共同研究・開発の迅速化

1. 研究、開発、試験及び評価プロジェクトに関する了解覚書

(Memorandum of Understanding for Research, Development, Test and Evaluation Projects)

- ✓ **共同研究・開発事業を開始**する際、事業ごとに合意文書（了解覚書）が必要だったが、これを**包括的に適用するための覚書**。
- ✓ 各事業で必要な**行政手続きを簡素化**。**技術協力の加速**に寄与。

サプライチェーン協力の強化

2. 防衛装備品等の供給の安定化に係る取決め

(Security of Supply Arrangement)

- ✓ 国家安全保障を確保するために必要な**産業資源**（軍事物資や役務等）を**安定的に相互供給**するための枠組み。
- ✓ 防衛装備品の**強靱で多様化されたサプライチェーン構築**に貢献。

FMS調達の合理化

3. 相互政府品質管理に係る枠組み

(Reciprocal Government Quality Assurance)

- ✓ 日米間で調達装備品の**品質管理業務を相互に無償提供**する枠組み。
- ✓ **有償援助（FMS）装備品等の調達額が縮減**されるとともに、調達分野における**米国との協力関係の向上**に寄与。

日米装備・技術協力の深化②（共同研究・開発）

- 科学技術の急速な進展が安全保障のあり方を根本的に変化させる状況下、先端技術に関する米国との協力により技術的優位の確保を図る。

極超音速技術に対抗するための技術

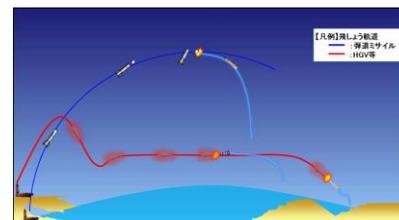
- ・ 要素技術・構成品レベルでの共同研究の開始

HGV(※1)等の迎撃においては、従来の弾道ミサイル迎撃に比べ、より高い耐熱性素材技術の獲得や極超音速環境下での試験が必要となるため、これらに関する共同研究を開始する。

(※1) Hypersonic Glide Vehicle : 極超音速滑空兵器

- ・ 将来のインターセプターの共同開発の検討開始

将来のインターセプターの共同開発の可能性について議論を開始する。

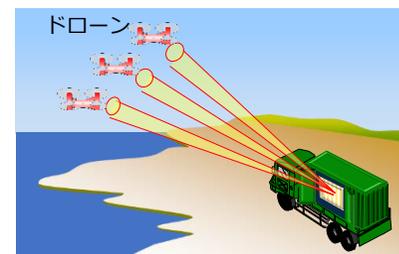


(イメージ)

高出力マイクロ波 (※2)

脅威が高まるドローン等を無力化するなど、将来のゲーム・チェンジャーとなりうる高出力マイクロ波に関する共同研究に向けた取組を推進する。

(※2) HPM (High-Power Microwaves) : 指向性のある電波を高出力で発生・照射することで、ドローン等に搭載された電子機器の誤作動や破壊を誘発



(イメージ)

自律型システム

防衛省としては、ゲーム・チェンジャーとなる「無人アセット防衛能力」を重視しており、その取組の核心は次期戦闘機と連携する無人航空機能力の実現にある。その実現に必要な高度な自律化技術等の分野において、本年中に共同研究の可能性を含め自律型システムに関する具体的な協力を開始する。



(イメージ)